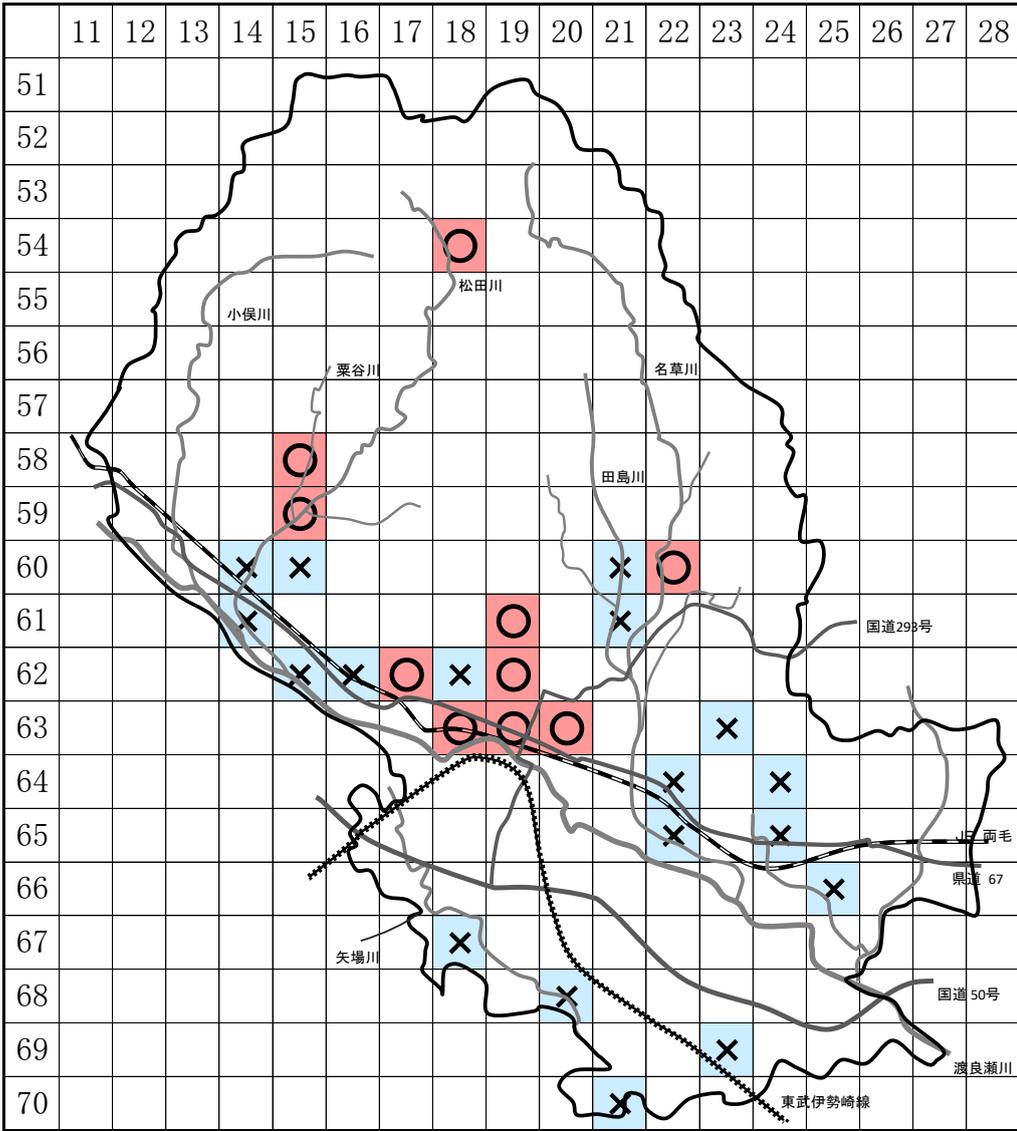


# Ⅱ 調査結果

## 1 身近な生き物調査結果

アオバズク	確認数： 10 メッシュ
	報告数： 28 メッシュ
	2021年度 13/35 2020年度 14/31

※過年度 確認数/報告数



ハトぐらいの大きさ  
でフクロウの仲間。青  
葉の茂る頃に飛来する  
夏鳥である。胸から腹  
にかけてまだら模様で  
あるが、全体的にこげ  
茶色である。神社や  
寺、公園などの林で、  
日中はほとんど動かない  
が、夜になると蛾や  
その他の昆虫をねらっ  
て活動する。よくとお  
る声で「ホッホー、  
ホッホー」と鳴き続け  
る。

かんさつてきき  
観察適期  
5月～10月

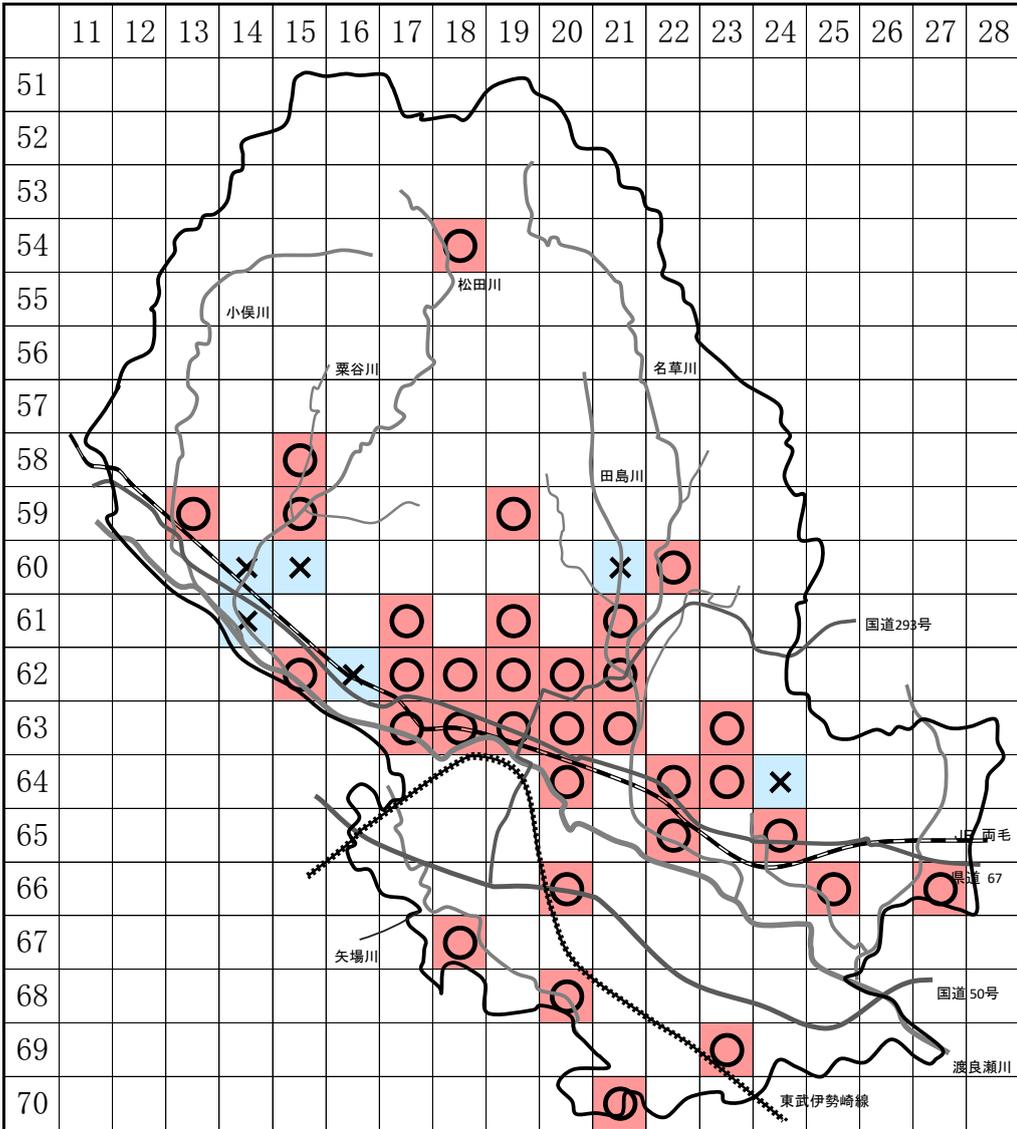
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

### 調査結果

羽角のあるフクロウ類を「木兔」といい、木に棲む兔すなわち「ミミズク」と言います。でもアオバズクには羽角はないです。（今年、令和5年は「ウサギ」年です。）青葉の頃、渡って来て夕方「ホッホッ。ホッホッ。」と二声で鳴きます。昼は樹洞や木幹で休んでいて発見しにくいです。やはり鳴声がたよりでしょうか？ 発見は昨年より1つ減りましたが、同じ場所で観察されています。東側（富田地区）の発見がないのが気にかかります。

シジュウカラ	確認数： 33 メッシュ
	報告数： 39 メッシュ
	2021年度 37/45 2020年度 36/40

※過年度 確認数/報告数



スズメぐらいの<sup>おお</sup>大きな<sup>お</sup>おき  
 さいで、林や樹木のある  
 こうえんなどで<sup>ふつう</sup>普通に<sup>み</sup>見ら  
 れる。頭が黒く、ほお  
 が<sup>しろ</sup>白く、のどから<sup>はら</sup>腹に  
 かけて黒いネクタイを  
 しているように<sup>み</sup>見え  
 る。背中は<sup>せなか</sup>灰色で<sup>はいろ</sup>緑が  
 かっている。「ツツ  
 ピー、ツツピー」とさ  
 えずり、「チーチー、  
 ジュクジュク」とも<sup>な</sup>鳴  
 く。とても動きが<sup>はや</sup>速  
 く、時々庭にも<sup>あらわ</sup>現  
 れる。

かんさつてき  
**観察適期**  
 ねん かん  
 年 間

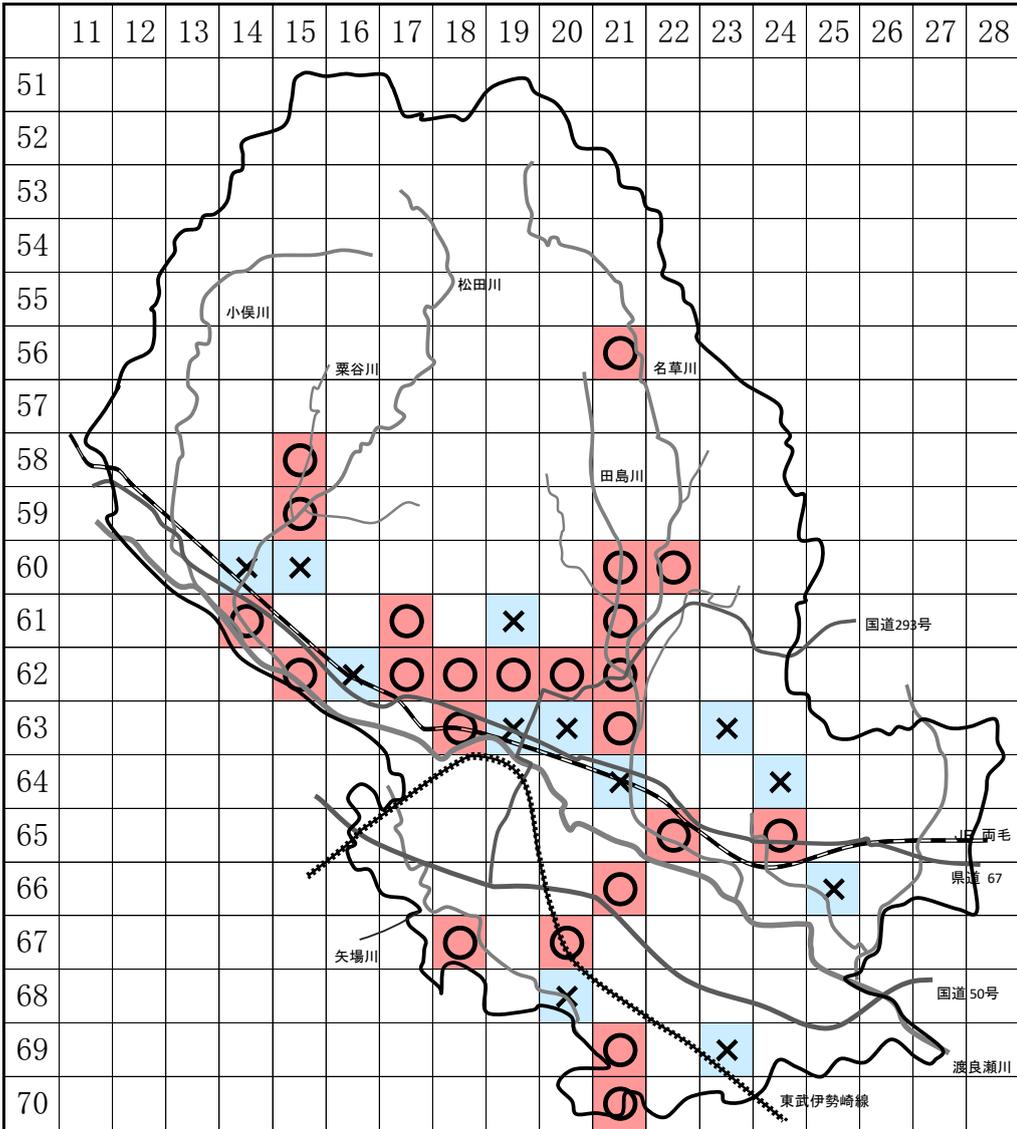
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

### 調査結果

まちなかから<sup>こうがい</sup>郊外まで、<sup>あしかが</sup>足利ではどこでも<sup>かんさつてき</sup>観察出来ている<sup>よう</sup>様です。スズメと同じ<sup>おな</sup>様に<sup>たいしゅうか</sup>大衆化した<sup>とり</sup>鳥  
 になって来ています。のどから<sup>しもびとう</sup>下尾筒までの<sup>くろ</sup>黒い<sup>たて</sup>縦の<sup>もよう</sup>ネクタイ模様と<sup>せ</sup>背の<sup>りよくおうしよく</sup>緑黄色が<sup>とくちようてき</sup>特徴的です。  
 ツピー・ツピーと<sup>な</sup>鳴く<sup>こえ</sup>声も<sup>こちよ</sup>心地良いですね。

カワセミ	確認数： 23 メッシュ
	報告数： 35 メッシュ
	2021年度 25/38 2020年度 27/39

※過年度 確認数/報告数



スズメよりやや<sup>おお</sup>大きい。くちばしが長く背<sup>なが</sup>中<sup>なか</sup>がコバルトブルーで、腹<sup>はら</sup>がオレンジ色の<sup>いろ</sup>美しい<sup>うつく</sup>鳥<sup>とり</sup>である。水<sup>みず</sup>辺<sup>べ</sup>に生<sup>せい</sup>息<sup>そく</sup>し、木<sup>き</sup>の枝<sup>えだ</sup>やクイ<sup>こ</sup>イ<sup>い</sup>に止<sup>と</sup>まって小<sup>こ</sup>魚<sup>さかな</sup>をねらい、ダイビングして捕<sup>と</sup>らえる。水<sup>すい</sup>面<sup>めん</sup>すれすれに直<sup>ちよく</sup>線<sup>せん</sup>的<sup>てき</sup>に飛<sup>と</sup>び、「チーッ」あるいは「ツイー」と自<sup>じてん</sup>転<sup>ん</sup>車<sup>しゃ</sup>のブレーキ<sup>おん</sup>音<sup>こえ</sup>のような声<sup>こえ</sup>で鳴<sup>な</sup>く。

かんさつできき  
観察適期  
ねん かん  
年 間

- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

**調査結果**

10年位前までは清流の水辺の鳥でしたが、今では完全に都市鳥化しています。小魚（メダカやモツゴ）がいれば街中の汚れた水路でも見られます。袋川・逆川・松田川・蓮台寺川等での報告があります。河南地域の矢場川も健在です。23メッシュはうれしい思いです。

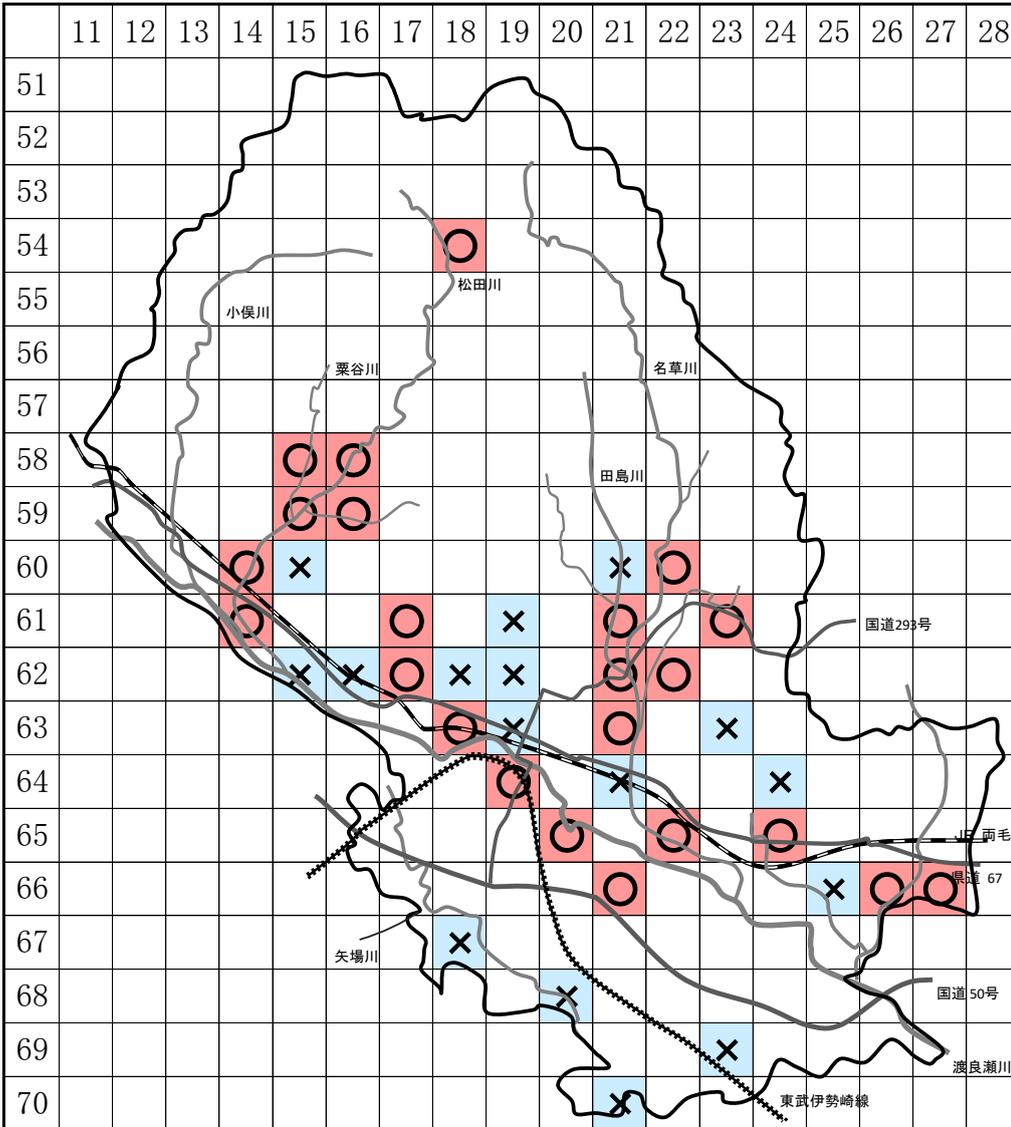
# オオヨシキリ

確認数： 23 メッシュ

報告数： 39 メッシュ

2021年度 22/42 2020年度 30/40

※過年度 確認数/報告数



スズメより<sup>おお</sup>大きい<sup>なつ</sup>夏鳥で、4月末から5月にかけて、水辺の<sup>みずべ</sup>開けた<sup>ひら</sup>ヨシ原（アシ原）に飛<sup>ひ</sup>来する。背<sup>せ</sup>中<sup>なか</sup>が<sup>かつしよ</sup>褐色、胸<sup>むね</sup>から腹<sup>はら</sup>にかけて<sup>たんかつ</sup>淡褐色の目<sup>め</sup>立たない<sup>とり</sup>鳥である。見<sup>み</sup>通<sup>とお</sup>しのよい、ほぼ<sup>き</sup>決<sup>ま</sup>った<sup>ばしよ</sup>場所<sup>で</sup>「ギョギョシ、ギョギョシ」と<sup>おお</sup>大きな<sup>こえ</sup>声<sup>で</sup>鳴<sup>な</sup>き<sup>つづ</sup>けるが、8月になるとほとんど<sup>な</sup>鳴<sup>な</sup>かなくなる。

かんさつてきき  
観察適期  
5月～8月

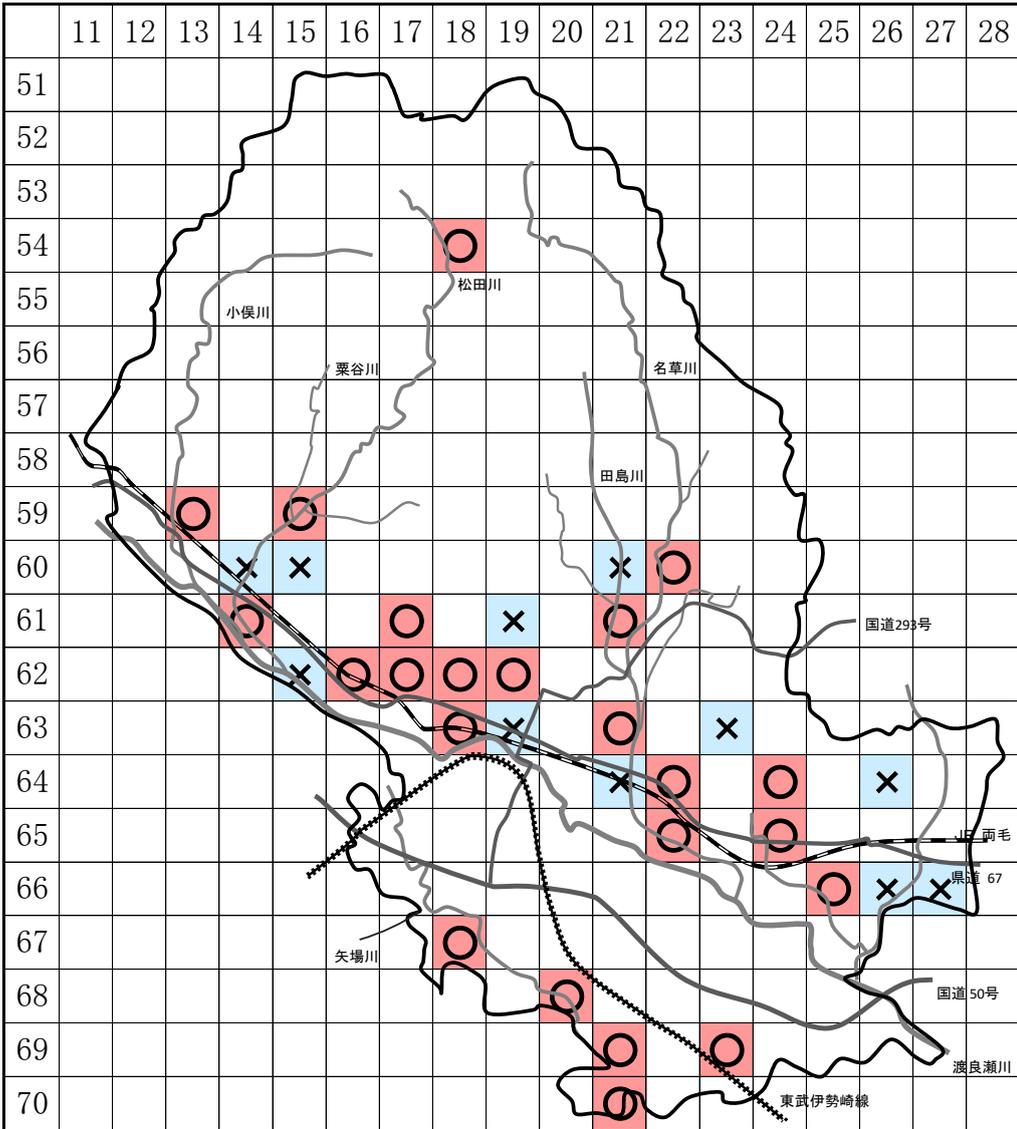
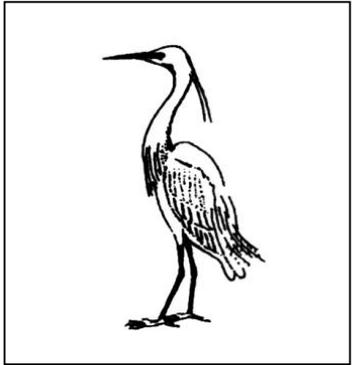
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

## 調査結果

ヨシにとまって<sup>おお</sup>大きな<sup>こえ</sup>声<sup>で</sup>「ギョギョシ・ギョギョシ」と<sup>さえず</sup>囀<sup>と</sup>る鳥<sup>です</sup>。初夏<sup>しよか</sup>を感じ<sup>かん</sup>させる<sup>なつどり</sup>夏鳥<sup>の</sup>代表<sup>だいひよう</sup>です。松田川・渡良瀬川・袋川・尾名川と報告がありますが、矢場川の報告が今回はありませんでした。（私は矢場川で何度か<sup>わたし</sup>声<sup>やばがわ</sup>を<sup>なんど</sup>聞<sup>こえ</sup>いて<sup>ま</sup>す。）大幅<sup>おおはば</sup>に減少<sup>げんしよけいこう</sup>傾向<sup>と</sup>にある<sup>とり</sup>鳥<sup>だ</sup>と思<sup>おも</sup>います。

コ サ ギ	確認数： 23 メッシュ
	報告数： 34 メッシュ
	2021年度 37/42 2020年度 33/40

※過年度 確認数/報告数



カラスよりもやや大  
 きく、四季を通して見  
 られる普通の白サギで  
 ある。くちばしが黒  
 く、白サギ類の中では  
 コサギだけが足指が黄  
 色である。川や沼、水  
 田、湿地などで小魚や  
 アメリカザリガニ、カ  
 エルなどを捕らえる。

かんさつてきき  
**観察適期**  
 ねん かん  
**年間**

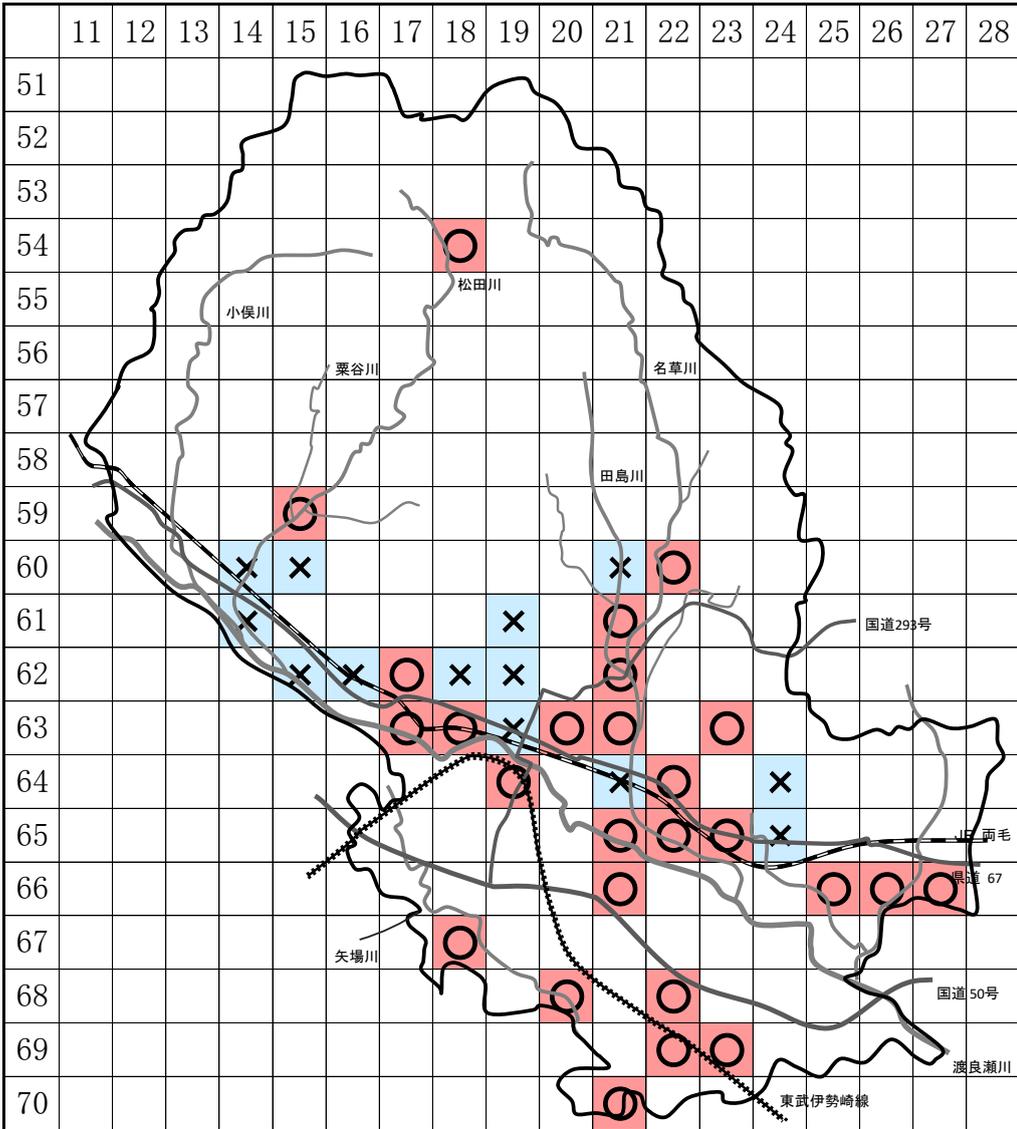
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

**調査結果**

サギ類は非常に多く見られていますが、レポーターの皆さんからも識別が難しいという声も聞かれます。ダイサギ・アオサギは多いですが、コサギは減少気味だと思います。また観察期（5月～7月）には、アマサギ・チュウサギも田んぼに入ってきています。今年は識別に挑戦してみてください。

ヒ バ リ	確認数： 26 メッシュ
	報告数： 39 メッシュ
	2021年度 29/37 2020年度 23/33

※過年度 確認数/報告数



スズメより少し大きく、広々とした河原や農耕地などにすむ。色はスズメより少し淡い褐色だが模様は似ている。早春から大空高く舞い上がり、宙に留まりながら「ピーチュク、ピーチュク」と長く鳴き続ける。地上では頭の羽毛を立てている時が多く、虫や草の種子をあさっている。

かんさつてきき  
観察適期  
ねん かん  
年 間

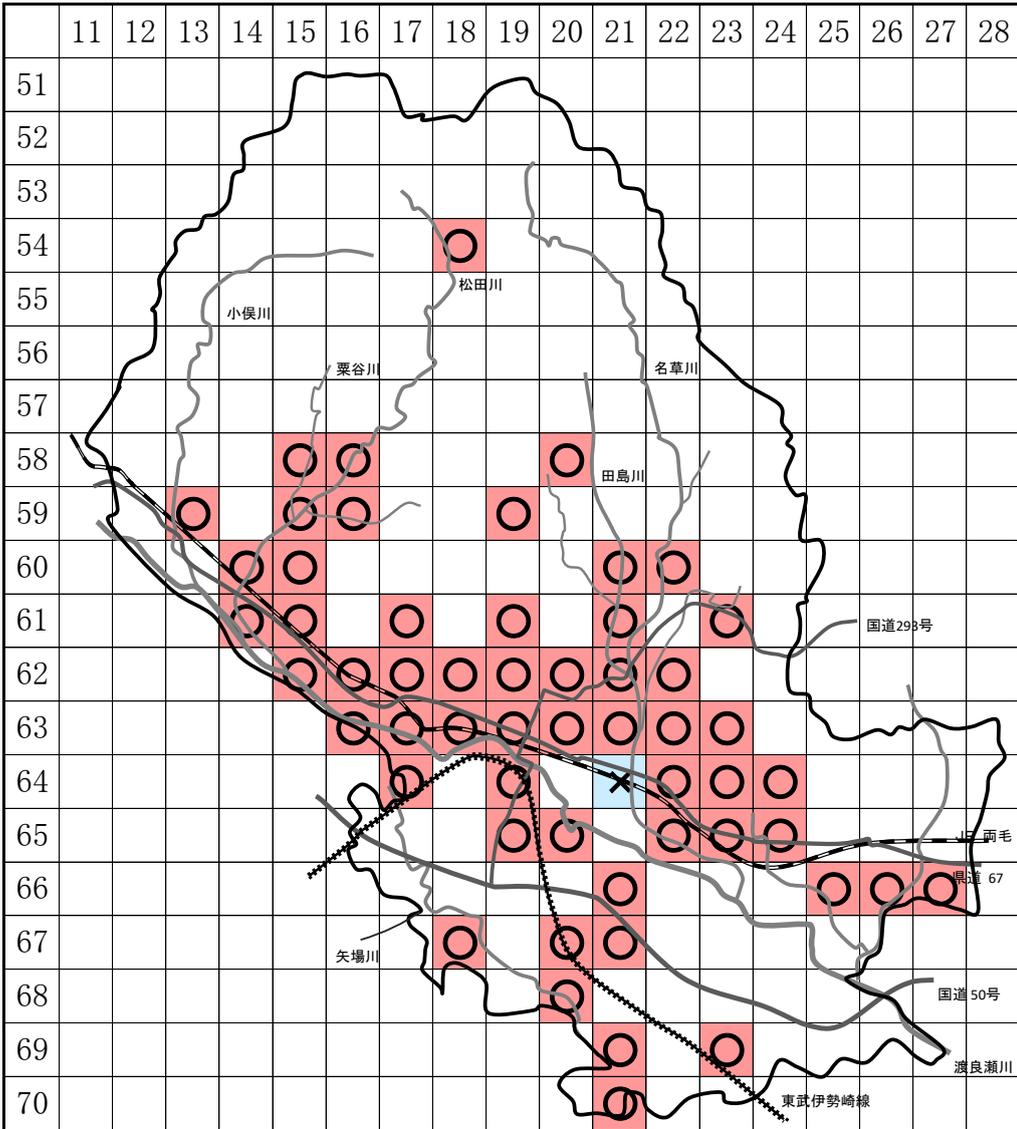
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

**調査結果**

草地・農耕地・河川敷等開けた場所に生息し、天気の良い日には空高く轉ります。誰でも分かる鳥だと思います。今回は確認数は少なかったですが、市内全般で観察されていると思います。

ツバメ	確認数： 55 メッシュ
	報告数： 56 メッシュ
	2021年度 53/53 2020年度 53/57

※過年度 確認数/報告数



ひとひと <sup>あい</sup>愛され、<sup>した</sup>親しまれてきた夏鳥である。のどが <sup>あかちいろ</sup>赤茶色で背 <sup>せ</sup>が黒く、尾は長く <sup>な</sup>二つに分かれている。毎年3月末から4月にかけて飛来し、軒先に土で巣を作り繁殖し、9月ごろ南へ渡っていく。

ツバメに似た、腰の白いイワツバメや、腰が茶色のコシアカツバメも見られるので、注意して観察しよう。

かんさつてきき  
**観察適期**  
4月～10月

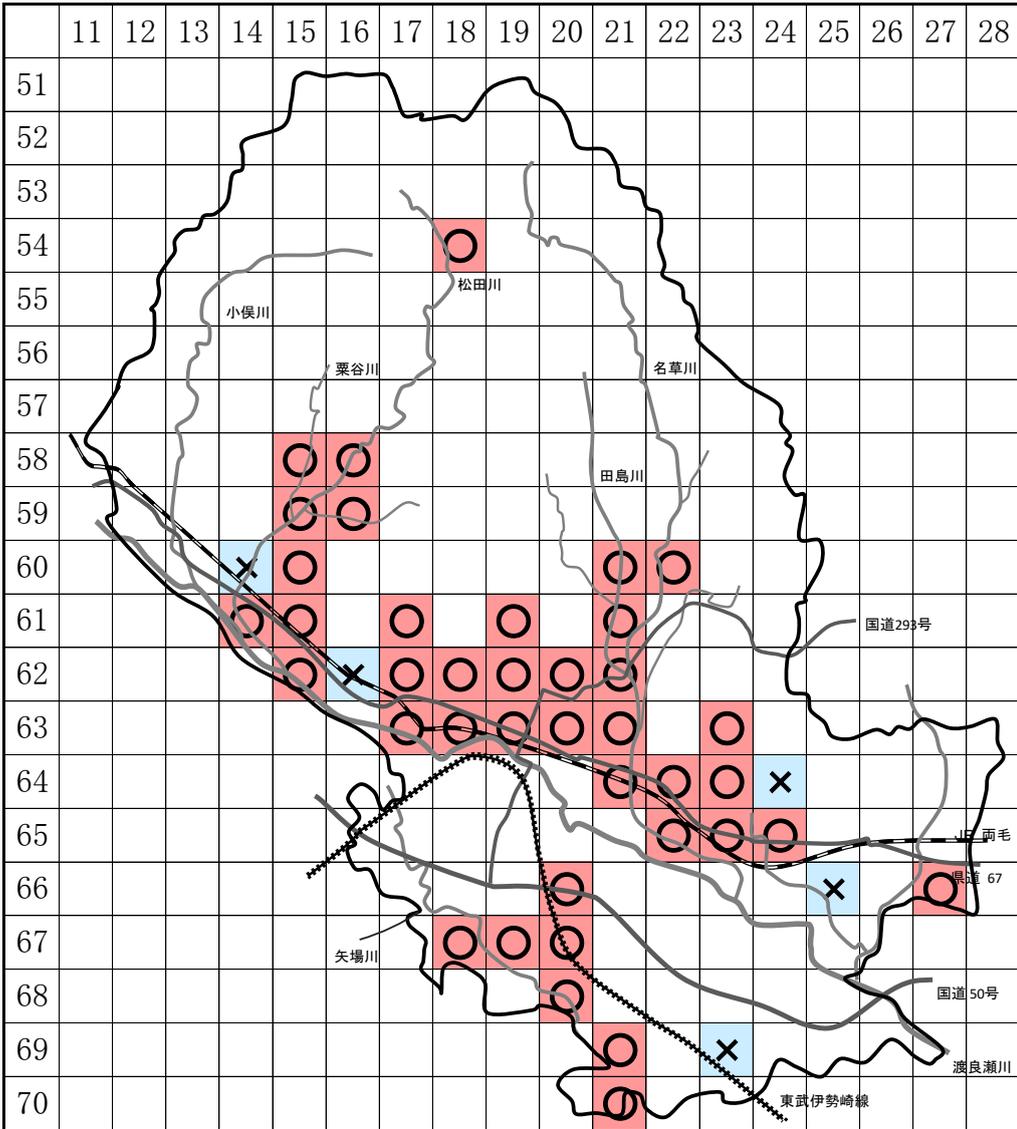
- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

### 調査結果

おどろいています。99%の <sup>かくにんほうこく</sup>確認報告です。足利では、どこでも <sup>かんさつてき</sup>観察出来ています。最近、<sup>す</sup>巣の数も <sup>ばしよ</sup>場所も <sup>すく</sup>少なく <sup>しんぱい</sup>心配していました。昔から <sup>むかし</sup>益鳥として <sup>した</sup>親しまれてきました。最近 <sup>さいきん</sup>は <sup>す</sup>巣がカラスに <sup>ねら</sup>狙われたりしています。ぜひ <sup>みまも</sup>見守ってやってください。またイワツバメ、コシアカツバメ、ショウドウツバメも見られています。識別に <sup>しきべつ</sup>挑戦して <sup>ちようせん</sup>みてください。

オ ナ ガ	確認数： 39 メッシュ
	報告数： 44 メッシュ
	2021年度 43/48 2020年度 43/47

※過年度 確認数/報告数



キジバトくらいのおお  
 きさで、<sup>あたま</sup>頭が黒く、<sup>せ</sup>背  
 なか<sup>はいろ</sup>が灰色で、<sup>みずいろ</sup>水色の<sup>お</sup>尾  
 羽が<sup>なまえ</sup>名前のとおり長い  
 のが<sup>とくちょう</sup>特徴である。<sup>き</sup>樹の  
 おお<sup>しがいち</sup>多い市街地や<sup>そんらく</sup>村落の<sup>じゅ</sup>樹  
 上に<sup>す</sup>巣を作り、<sup>こんちゆう</sup>昆虫や  
 き<sup>み</sup>木の実を<sup>た</sup>食べている。  
 ねんじゆう<sup>う</sup>年中、「ゲーイ、ギユ  
 ギユ」と<sup>な</sup>鳴きながら、  
 じゆうすうわ<sup>しゅうだん</sup>十数羽の<sup>こうどう</sup>集団で<sup>こうどう</sup>行動  
 し、<sup>かんとうちほう</sup>関東地方では<sup>ふつ</sup>ふつ  
 うに見られる。

かんさつてきき  
**観察適期**  
 ねん かん  
**年間**

- ・生き物が見つかったメッシュ ..... ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ ..... × 印で表示

**調査結果**

黒い<sup>ぼうし</sup>帽子に<sup>せ</sup>背は<sup>はいろ</sup>灰色から<sup>あか</sup>明るい<sup>あおいろ</sup>青色の<sup>おぼね</sup>尾羽、<sup>こえ</sup>声は「ゲーイ、ゲーイ」と<sup>な</sup>だみ声で鳴く。5  
 ~10羽位の<sup>わくらい</sup>群れで<sup>む</sup>移動しているようです。今回も90%以上の<sup>いじょう</sup>報告でした。<sup>ほうこく</sup>山裾から<sup>やますそ</sup>市街地、  
<sup>のうこうしゅうらく</sup>農耕集落と<sup>かくしよ</sup>各所で<sup>かんさつ</sup>観察されています。